

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590104091		
法人名	社会福祉法人 菊水会		
事業所名	地域密着型グループホーム にじの丘		
所在地	山口県下関市菊川町大字田部223-9		
自己評価作成日	平成26年1月9日	評価結果市町受理日	平成26年9月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成26年2月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームにじの丘は緑に囲まれた小高い丘の上にあります。近くに小学校があり、子供たちとの交流もあります。施設は特養と併設しており、お茶会や、にじの丘まつり等大きな行事は特養と合同で行っています。併設の訪問看護ステーションは、医療連携として看護師が週3回訪問し、入居者様の健康管理を行っています。食事は3食手作りで、中庭の畑で取れる季節ごとの野菜を使用し、入居者様と一緒に調理や盛り付けをしています。毎月甘酒を作ったり、年1回味噌作りをし、手作りの身体にいい物を楽しんで頂いています。2ヶ月に1回家族会を開き入居者様、ご家族、職員で会食しています。鍋を囲んでの忘年会は年末の恒例行事となっています。昨年10月に家族会の日帰り旅行を実施しました。全員参加することが出来てとても良い1日でした。入居者様には日々散歩や外出を通じて季節を感じて頂けるように支援していきます。これからもご家族との関係を大切にします。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

前回の外部評価結果について全職員で話し合わせ、ゆったりとした日常の会話の中で聞き取った本人の言葉や様子を記録され、スタッフ会議で話し合わせ、思いや意向の把握に努めておられ、利用者自身が買い物を楽しめる時間をつくられたり、レクリエーションや食事の準備など、利用者が生活を楽しめるような支援に取り組んでおられます。地域の夏祭りや文化祭、祇園祭、御大師様のお接待など利用者の馴染みの場所への外出を支援され、ピアノコンサート、絵画展、書道展、夏まつり、お茶会など法人行事に来訪される家族やボランティア、小学生や幼稚園児など地域のひととの交流を支援しておられます。運営推進会議で話し合わせ緊急時連絡網を整備しておられる他、市担当課と情報を共有され、事業所を地域の避難場所として使用することや非常用発電機、ボート、備蓄など、災害時の地域との協力体制を築く取り組みをしておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念をもとに作成した、グループホーム独自の目標を共有し実践できるように、毎日復唱し確認している。	事業所の理念を朝の申し送りで唱和している。「生活日誌(全体記録)」に掲げて日々のケアの中で確認して共有し、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏まつり、文化祭、祇園祭等、地域の行事に参加している。また、ボランティア(ハーモニカ演奏、カラオケ教室)や、地域の小学校や幼稚園との交流がある。	自治会に加入し、地域の夏祭りや文化祭、祇園祭、御大師様のお接待などに利用者と共に参加している。職員はボランティアとして地域の道の駅のトイレの美化活動に参加している。法人の行事(文化祭、ピアノコンサート、絵画展、書道展、夏まつり、お茶会等)に参加している地域の人や家族、ボランティアと交流している。小学生や幼稚園児の来訪がありゲームや肩たたきなどで交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度、法人主催の「地域で学びま専科」という勉強会で、地域の方と一緒に勉強会を開催している。9月に認知症についても勉強し、職員も参加している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価用紙を職員1人1人に配布しそれをまとめましたが、きちんと読み理解することで、意義や目的、出来ていること出来ていないことを考えることができました。また、外部評価の結果によりケアの見直しをし、より良いサービスを目指すように努めています。	自己評価をするための書類を全職員に配布し、管理者が勉強会で項目の説明をしたうえで、全職員が記入して管理者がまとめている。職員は日々のケアを自分の中で整理し、前回の外部評価結果について話し合い、利用者の思いの把握に努め、レクリエーションや買い物、食事の準備など利用者が生活を楽しめるような支援の工夫に取り組んでいる。	
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、入居者様の様子やサービスへの取り組みの状況を報告している。評価結果や目標達成計画の取り組みについても報告し、意見をもらうようにしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況や行事報告、ヒヤリハット報告、外部評価報告などの報告をして、災害対策などについて話し合っている。メンバーの呼びかけで消防団の人が来訪し、避難訓練のDVDと一緒に視聴して協力関係を築くなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市町担当者に推進委員として出席していただき、取り組みの内容を伝えて緊急時の連携や協力をお願いしている。また、地域の行事等のご案内もしている。	市担当課とは、運営推進会議の他、出向いたり電話で相談し助言を受けている。地域連絡会議に市担当課や地域包括支援センターの参加があり、情報交換や勉強会を行って協力関係を築いている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループホーム勉強会、スタッフ会議、セーフティケア会議や、事業所内の勉強会で取り上げ話し合っている。玄関の施錠を含め身体拘束や、言葉による拘束がもたらす入居者様への影響を話し合い、ケアに活かしている。	法人の研修会に参加した職員が資料を回覧し、職員が話し合って1ヶ月ごとの目標の一つとして、意識的に身体拘束をしないケアに取り組んでいる。気になるところはリーダーが注意をしている。玄関の施錠はせず、スタッフ会議で話し合っで見守りに取り組んでいる。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内の勉強会に参加し、学ぶ機会を持っている。理解することで虐待防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、成年後見制度を利用されている方はおられないが、今後学ぶ機会を持ち、それらを活用できるように関係者と話し合い支援していきたい。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に担当者が、家族に重要事項説明書について説明し同意をとっている。解約又は、改定等の際は都度説明を行ない、理解・納得してもらっている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回ご家族に満足度調査アンケートを実施し対応やサービスについて意見をいただいている。また、苦情受付窓口の設置や、玄関にご意見箱を置き、意見や要望があれば書いていただけるようにしている。利用者、家族のご意見は、法人運営会議にて検討し運営に活かしている。	相談や苦情の受付体制や処理手続き、第三者委員を定め契約時に説明している他、意見箱を設置して意見や要望を表せる機会を設けている。家族旅行実施後など年2回満足度調査を行っている。家族の意見から献立表や行事予定表を玄関に貼るよう改善し、家族会で報告している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や、個人面談により意見を聴くようにしている。場合によっては、その意見を法人運営会議で検討し、反映することができる。	月1回のスタッフ会議や年1回の個人面談で意見や提案を聞いている。研修の希望を聞いたり、環境、食事、健康管理、セーフティなどの担当を決めて意見を聞き、利用者が自分の買い物を楽しめる時間を作るなど運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を活用しており、職員一人ひとりが目標を設定している。期末には上司との面談をし、日頃の勤務状況などを加味して評価し、賞与等に反映するようにしている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修や、外部の研修を受ける機会をもち、情報交換や参考になったことは取り入れている。全職員会議で外部研修の報告をし、研修内容は回覧により、周知するようになっている。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて参加の機会を提供している。月1回テーマを決めて開催する法人研修に職員が1人参加し、スタッフ会議で報告をして共有している。資格取得の支援も行っている。内部研修は職員の希望を聞いて2ヶ月に1回実施し、緊急時の対応、介護技術、自己評価、接遇、レクリエーションなどについて学んでいる。新人職員は法人での研修受講後、事業所で指導担当の職員等に働きながら技術や知識を学べる様に支援している。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所、グループホーム連絡会や地域ブロック研修会に参加し、学習会や、情報交換、交流の機会を持つ事により、サービスの質の向上につなげていくように努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、入居者様とよく話をすることで、信頼関係を築き、安心して生活していただけるように努めている。入居者様の不安や要望は常に傾聴するように心がけている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	グループホームでの生活がスムーズにいくように、入居前からご家族とよく話し合い、協力していただけるよう関係づくりに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族の要望を聴き、今必要なケアを知り、他のサービスも含めた対応が出来る様に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様と日常生活と一緒に過ごす中で、お互いに協力しながら和やかに過ごすことができるよう努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は、ご家族でゆっくり過ごしていただける環境を作っている。職員は、日頃の様子や気づき等をお伝えし、ご家族には、これまでの生活や昔の話等を聞き、入居者様と一緒に支えていくという関係づくりに努めている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	受診や外出の帰りに、以前住んでおられた場所を通ったり、馴染みの場所に買い物に出かけている。また、併設の施設に奥様がいらっしゃる方は、時々会いに行かれている。	家族や親族、元同僚、サークル仲間などの来訪を支援している。全家族が参加しての家族旅行で思い出の場所(唐戸地区)めぐりを実施したり、夏祭りや祇園祭、御大師様のお接待など馴染みの地域行事に参加できる機会を作っている。生活史ノートを作成して支援マップをつくり馴染みの関係が途切れないように支援している。家族の協力を得て外泊、外食、法事への参加などを支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を職員が把握して、レクリエーションをしたり、コミュニケーションが図れる様に支援している。心身の状態や気分の変化にも注意し、見守るようにしている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方でも、今後のサービスの確保が出来る様に情報提供や相談があれば応じている。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様やご家族とよく話をし、一人ひとりの思いをしっかりと受け止め、その人らしい暮らし方が実現できるように努めている。困難な場合でも、入居者本位に考え、ケアを検討している。	家族や前利用施設からの情報を参考に入居時アセスメントの活用の他、利用者を担当する職員と計画作成担当者がセンター方式を活用して本人から聞いたことや言動を記録して、スタッフ会議で話し合い思いや意向の把握に努めている。困難な場合は言葉かけを工夫し、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や、入居時又は、家族会の面談の時に聞き取りをして、センター方式に記入しこれまでの暮らしの把握に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりの生活のリズムを把握し、言葉や行動から心身の状態を感じることが出来るように見守りしている。できる事を大切にしながら支援するように努めている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族の希望を聴き、入居者様がより良く暮らしていける様に課題とケアを、カンファレンスにて話し合い、それぞれの立場からの意見や考えを介護計画に活かしている。	医師や看護師の意見を参考にし、本人や家族の思いや意向を反映させた介護計画を立て、月1回のスタッフ会議でモニタリングを行い、6ヶ月に1回ケースカンファレンスで見直しをしている。状態の変化があればその都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきは、個別に毎日記録して職員間で情報共有し介護計画の見直しに活かしている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族の思いを大切にし、その時々に応じてその人に合わせた支援を柔軟に行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	協力医療機関は、内科、消化器内科、循環器内科、歯科があり、必要に応じて受診するようにしている。ボランティアの受け入れや、小学生の訪問は入居者様の生活の中の楽しみとなっている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関以外の、入居者様のかかりつけ医の受診については、ご家族の協力の下受診している。連携や情報共有はできている。	本人や家族の納得を得て協力医療機関をかかりつけ医とし、週1回往診があり、2ヶ月に1回定期受診をする他、訪問看護師による週3回の健康管理を行っている。他科の受診は本人や家族の希望する医療機関に家族の協力を得て受診の支援をしている。受診結果は職員と家族が共有して、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に訪問看護師が週3日健康管理を行っている。気付いた事や、相談はその都度行っていて、必要があれば看護師から協力医に報告し、指示をもらっている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供書を作成し情態を報告している。入院中も病院関係者やご家族と連絡を取り、情報交換や相談を行っている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明している。早い段階で、入居者様、ご家族と話し合い、事業所で出来る事を説明し、必要に応じて主治医からご家族に説明していただくようにしている。	看取りの指針があり、契約時に家族に説明している。早い段階から移設を含めて本人や家族の希望に添えるよう話し合っている。医療連携を整え運営推進会議でも話し合って支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	一人ひとりのリスク管理については、スタッフ会議で話し合っている。事故が発生した時は、毎月行われている事業所内のセーフティケア委員会で報告し、対策をたてて事故防止に努めている。急変や、事故発生時に備えて、緊急時の対応の訓練を週2回定期的に行っている。	事故・ヒヤリハット報告を月ごとに集計し、法人のセーフティケア会議で報告して、検討し、会議録を回覧している。職員はスタッフ会議で話し合っ、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。週2回15分程度、マニュアルに沿った緊急時の訓練を行っている。	・応急手当や初期対応の訓練の更なる充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署の協力により法人内で避難訓練を行っている。地域との協力体制は運営推進会議で緊急時の連絡網を作成している。自治会、消防団にも協力を呼びかけている。	消防署の協力を得て年2回、夜間想定を含む避難、消火、通報訓練を法人と合同で行う他、事業所の避難誘導訓練を年2回、利用者も参加して実施している。運営推進会議で話し合い緊急時連絡網を作成している。災害時に市担当課と情報を共有し、事業所を地域の避難場所として使用することや非常用発電機、ボート、食料や医療品などの備蓄などについて協力体制を築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格を尊重し、一人ひとりに合わせた言葉かけをしている。法人内での勉強会(接遇について)に参加したりスタッフ会議等で話し合っている。入居者様の誇りやプライバシーに配慮した対応言葉かけに心掛けている。	法人の接遇研修で学んだ職員が復命して全職員が人格の尊重とプライバシーの確保について理解している。一人ひとりに合わせた言葉かけや対応をし、トイレ誘導や電話応対などプライバシーに配慮している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の体操後の飲み物の希望をお聞きしたり、外出の希望や、入浴の時間等日常生活の中でその都度自己決定が出来る様に働きかけている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切にするように心掛けている。居室や居間で希望に添って過ごしていただき、買い物や外出は体調や思いに配慮し希望に添うように対応している。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動美容室があり、カットやパーマ等入居者様の希望に添って利用している。馴染みの美容院にも行けるよう支援している。ご自分の着られる服は着たいものを選んでおられる。難しい方は一緒に選んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	畑でとれた旬の野菜を利用し、季節を感じて頂けるように工夫し調理している。苦手なものがあれば別の物を準備している。食事作りや盛り付け、片付け等入居者様と一緒にを行い、役割分担や楽しい雰囲気作りを大切にしている。	利用者の好みを取り入れて栄養士が献立をつくり、畑の野菜や差し入れの旬の食材を利用して、三食とも事業所で調理している。利用者は地元の食材の買い物や下ごしらえ、盛付け、お茶の準備、下膳、食器洗いなどを職員と一緒にやり、味噌づくりやおやつづくり(ぜんざい、ホットケーキ、ゼリー、蒸しパン、焼き芋など)、甘酒づくりなどを楽しんでいる。節分の太巻き、そうめん流し、誕生日の好みの献立、ビールと刺身、家族の協力を得ての外食、法人のお茶会への参加など利用者が食事を楽しめるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事の形態が把握できるように一覧表を作成している。入居者様に合った食事量や水分量が、摂取出来る様に心身の状態や、習慣に応じた対応をしている。1日の食事摂取量、水分摂取量は健康チェック表に記入し状態を把握している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声掛けを行っている。入居者様に合った見守りや、一部介助を行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態や排泄パターンに応じて排泄介助を行っている。生活記録表を活用し、時間ごとのトイレ誘導や声掛けによりトイレでの排泄にむけた支援をしている。	生活記録表に排泄状況や水分摂取量を記録し、パターンを把握して、プライバシーに配慮した声かけを行い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防の為、毎朝牛乳を飲んでいただいている。ヨーグルトやバナナも朝食にお出ししている。日常的に体操や散歩等、体を動かしていただけるように働きかけている。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後1時半から6時までの間で、一人一人の希望の時間をお聞きしながらほぼ毎日入浴していただいている。入浴できないときは、清拭を行っている。	13時30分から18時までの間に希望者は毎日入浴できる。入浴中はゆっくりと職員との会話を楽しみ、柚子湯など季節を楽しめるよう支援している。状態に合わせて清拭や足浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣やその時の状況に応じて、居室や居間にてゆっくり過ごしていただいている。就寝前には居室の見回りをし、安心して眠れるように環境を整えている。眠れない時は、温かい飲み物を勧めたり話をして		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のファイルを作成し、処方箋はすぐに見ることが出来るようにしている。また、症状の変化があれば訪問看護や協力医に報告し連携を図れるようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事や好きなことを聞いて、家事・畑仕事・生け花・歌・将棋・裁縫など、様々な機会を提供することで張り合いや、喜びのある日々を過ごすことが出来る様に支援している。	2ヶ月に1回の家族会で畑仕事や会食を楽しんでいる。法人合同で行う味噌づくりや芋ほり、しめ縄づくり、クリスマス会、敬老会、ラジオ体操、カラオケ、脳トレ、本の読み聞かせ、カルタとり、折り紙、トランプ、輪投げ、お手玉づくり、積み木崩し、新聞を読む、テレビ視聴（歌謡ショー、水戸黄門、笑点など）、ランチョンマットづくり、洗濯物干し、洗濯物たたみ、料理の下ごしらえなど、楽しみごとや気分転換等の支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物等、日々の状況や希望に応じて行っている。季節ごとの外出計画を立て戸外にもでかけている。	初詣、花見（桜、菖蒲、つつじ）、ミカン狩り、蒨摘み、地域の夏祭りや文化祭、祇園祭、御大師様まいり、ボランティアが来訪する法人行事への参加、青空散歩、買い物、畑での収穫などの支援をしている。家族会での日帰り旅行、外泊、外食など家族の協力を得て支援をしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族より定期的にお金をお預かりしているが、買い物で入居者様が希望される時は直接お金を渡している。また、少しのお金の管理をされている入居者様もおられるので、職員はお金を持つことの大切さを理解し気を配っている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望があればいつでも電話を掛けられるようにし、年賀状も毎年書いていただくように支援している。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や居間には、入居者様に季節の花を生けてもらっている。居間には掲示板があり、カレンダーや行事がすぐわかるように掲示工夫している。	共用の空間は廊下を含めて広々としており、明るい陽ざしが入っている。利用者が生けた季節の花や利用者が描いた絵を飾り、テレビの前のソファでゆっくりと寛ぐことができる。対面キッチンから食事づくりの様子が伺え、生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食席は、気の合う方同志座って頂く様に配慮している。居間やティールーム、廊下、玄関にも座ることが出来る様にソファや椅子を置き、ゆっくり話をしていただけるスペースを作っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた馴染みの物を持ってきていただき、入居者様が居心地良く過ごしていただけるようにしている。家具の配置は、入居者様やご家族と相談し安全かつ快適に過ごしていただけるように工夫している。	思い出深い古箏箏、仏壇、テレビ、衣装ケース、鏡、化粧道具、日用品などを持ち込み、家族の写真、作品、花などを飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の状態に合わせて手すりや居室、トイレ、廊下等安全確保に配慮している。また、居室には個々に応じて掃除道具が置いてあり日々使用できるようになっている。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名 地域密着型グループホーム にじの丘

作成日： 平成 26年 8 月 22 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	緊急時応急手当や初期対応の訓練の更なる充実	職員一人ひとりの実践力の向上 1.緊急時の対応の充実 2.実践的な訓練の実施	1.職員一人ひとりが、週2回実施している緊急時の対応の参加状況を把握し、参加回数の少ない対応は積極的に参加する。 2.看護師による応急手当や初期対応を実践的に取り組み、消防署の普通救命講習やAED講習を受講する。	1年間
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加すること。